

とっとり Now

Summer 2023

巻頭
特集

「命救え！」全力疾走
24時間闘う猛者たち
知られざる消防の世界



あーとの森 自在置物 満田 晴穂 2

巻頭
特集「命救え！」全力疾走
24時間闘う勇者たち
知られざる消防の世界

4

開運おかげ詣で
因幡と伯耆の神社 船上神社 (琴浦町) 16ここにこの人
Human Life 空手家 宇佐美 里香 17きらり匠人
継承の技が語る世界 木地師 小林 義實 20

企業紹介 大成工業株式会社 22

鳥取のうま味 昭和喫茶の王道メニュー 23

VIVA! トットリLIFE
輝くIUJターン者たち 醤油等製造業経営、広告・デザイン業 (鳥取市) 24

Voice・読者プレゼント・編集後記 26

□「カメラアイ」「特集」「TOTTORI おもしろ発見手帖」は休みます。



●表紙イラスト●

池平 徹兵
いけひら・てっぺい1978年福岡県生まれ。島根大学卒。
東京オペラシティアートギャラリーprojectN、
岡本太郎現代芸術賞展、VOCA展などに出演。

138号表題『水と光』

窓から沢山の光が降り注ぐこのプールの水中
はどんな景色だろう。「福部ほっとスイミング
プール」(鳥取市)と「本池美術館」(米子市)
のキリンに、カモやイルカを加え、プールに入る
前のワクワク感を描いた。キャンバス/油彩『とっとりNOW』が毎月届く
「ふるさと来LOVEとっとり」
会員を募集中!入会
年会費
無料巻頭特集：「消火・救助・救急・予防」と多岐にわたる
消防の仕事

『自在蛇骨格』(銀・銅・真鍮・青銅、130×4×3cm、2019年)

驚異の再現と死生観

自在置物 満田 晴穂

いまにも動き出しそうな、トンボ、カブトムシ、ザリガニなど。実物大のリアルな形態は、質感も艶やかで生命感あふれる置物だ。作者は満田晴穂さん。100から500にも及ぶ細やかな金属のパーツで、本物同様に関節部分も動く自在置物(※)師の継承者として、全国でも注目される壮年の作家である。

外からは見えない口の中まで再現する、超絶技巧の制作は驚嘆するばかり。あるコレクターの妻が、トンボの亡骸と間違えて廃棄して、ひと騒ぎになったエピソードもあるほど。しかし、作者の本領は、単に精巧な趣向品ではなく、現代作家としての死生観に、究極の視点が定められているのだ。

『自在蛇骨格』は題名通りの骨だが、死んでなお鎌首を持ち上げた生動感。頭蓋骨にフナムシが群がる『晚餐』には、生死を絡ませた慄然の無常観がある。ほかに仏の手がゴキブリを持つ『識』連作があり、これらに通底するのは忌み嫌われるものを対等に正視し、置物からアートへと転換する決意だ。

「命は平等と言いながら、私たち人間はいたるところで差別している」と語る満田さん。「だが、すべての生と死は表裏一体。生か死かなんて答えは簡単に出ないが、その表現を追求していきたい」

驚異の職人技で根源的なテーマに挑戦する姿勢は、工芸と芸術を架橋する新たな騎手の出現と言えよう。

※自在置物＝金属を素材に、爬虫類や昆虫などを再現した工芸品で、関節などの接続部分が本物同様に動かせる。江戸末期から明治にかけて甲冑職人が制作していた技術を応用した細工物。



『晚餐』(銅・真鍮・青銅・人骨標本、寸法可変、2011-23年)

みつた・はるお

1980年鳥取県生まれ。2006年、東京藝術大学美術学部工芸科卒、08年、同大学院美術研究科修士課程彫金研究室を修了。在学中に自在置物師の雷木宗行と出会い師事、現在は唯一の継承者として作品を発表。全日本金・銀創作展会長賞、藝大アートプラザ大賞展大賞、創造する伝統賞など受賞。日本クラフト展入選。また、超絶技巧をテーマにした全国各地の展覧会に出品。





「命救え！」 全力疾走 24時間闘う勇者たち

知られざる消防の世界

119番の通報と共に、全速力で駆け付ける隊員たち。
消防の仕事は、主に「消火・救助・救急・予防」の
4分野で、さらに細かく分かれている。
それぞれに指揮系統があり、24時間365日、
人々を守るために訓練を欠かさず、いざの現場に備える。
知られざる「消防の世界」に潜入、その実態を探った。

文／倉恒 弘美 写真／萱野 雄一





あらゆる火災現場を想定しチームで日々、訓練する

チームプレーで迅速に消火

「出火から約5分、つまり到着する頃、火災現場では『フラッシュオーバー』^①といって急に激しく燃え出す現象が起こりやすい」。谷岡さんは、いかに危険と隣り合わせかを語る。現場では、隊長が状況を見て迅速に指揮を執るが、二次災害が起こらないよう安全確保は絶対だ。「ひとつとして同じ火災現場はない」という状況下で、瞬時に冷静な判断を下し、その命令に従って、チームプレーで機敏に動

く。これも日頃の訓練や経験、過去の検証などのたまものだ。刻々と変化する火災現場で、チームプレーの乱れは救助の遅れを招き、隊員自身の身にも危険を及ぼす。このため、あらゆる場面を想定した訓練が欠かせない。24時間、いつでも出動できるように備えながら、厳しい訓練や研修を積み重ねている。隊員たちは、「命を守る」という同じ使命を胸に、家族より長い時間を共に過ごし、強い絆で結ばれているようだ。



消防車には、ポンプ車、化学車、指揮車などの種類があり、水を貯えられるタンク車(写真)は現場で主力となる

消火

Fire Extinguishing

燃えにくい素材で作られた「防火衣」を身に着け、「防火帽」をかぶり、背中には空気ボンベも



1分1秒を争い現場へ急行

「火災指令!」。署内に指令センターからの放送が響き、一気に緊張が走る。一斉に駆け出す消防隊員たち。防火衣や防火帽、空気ボンベなど総重量20^②にもなる装備をあっという間に身に付け、車両に乗り込む。ここまでおよそ40秒。現場には約5分で到着する。「消防署」と聞いて、真っ先にイメージするのがこの「消火」だろう。消防隊は、火災現場で火を消すための技術を身に付けたプロフェッショナル集団だ。基本的に隊長、機関員(運転手)、隊員2人の4人1組のチームで消火活動にあたる。「ひと口に『火事』と言っても、

その種類はさまざまあります」と教えてくれたのは、鳥取消防署副署長の谷岡孝実^③さん。住宅などの建物や、林野、車両、危険物、航空機のほか、春先に多い枯草火災などだ。火災の種類や規模によって、出動車両の種類や台数、装備、チームの編成を変える。車両にしても、何と種類の多いことか。2^④の水タンクを備えた主力車両の「タンク車」や、高所の火災に活躍する「はしご車」、他にも「救助工作車」「化学車」「ポンプ車」「指揮車」などが、現場の状況に応じて編成を組む。



通報から約40秒で着替えを済ませ、現場へ。時間短縮のためにあらかじめ防火靴とズボンをセッティング



約40mの高さまで伸びるはしご車。マンションやホテルなど高所の火災で活躍する



■高度救助隊■
梶川 大輝 さん



「代わりはいない」誇りを胸に

高校2年生の時、身近な人が救急隊員や看護師として働く姿に憧れて、「自分も“誇れる”仕事をしたい」と入職した梶川大輝^⑤さん。現在、高度救助隊の資格を持ち、消火隊や救急隊、救助隊などで活躍する。

過去の火災現場で特に記憶に残っているのは、鳥取市佐治町で起こった林野火災だ。タンク車などの車両が入らず、山の中で水の確保ができない中、重たい装備を身に付け、1本7kgほどもあるホースをつないで、山を分け入って消火活動にあたった。

こうした過酷な現場もある中で、消防学校時代に教官から言われた「お前たちの代わりはいない」という言葉は、今も胸を熱くする。責任感と誇りを持って訓練を重ね、日夜現場に臨んでいる。

119番コールは次々と鳴り続け、
救急車の出動件数は年々アップしている



個々の傷病者に 寄り添い対応



緊急の場合は、救急救命士が気道確保などの
救命措置を実施する

消防署の活動の中で、一般市民が
一番接する機会があるのが「救急
隊」だろう。救急隊の仕事は、病気
やケガで苦しむ人のもとへ駆け付
け、適切な処置を行い救急車で病院
へ運ぶことだ。鳥取消防署の場合、
1日平均7件、多い日は1日中出動
していることもあり、24時間いつで
も出動できるように備えている。

救急隊は主に、隊長、隊員、機関
員（運転手）の3人1組で動く。救
急車の中は、ストレッチャーや傷病
者の状態を確認するモニターなど、
さまざまな資機材が搭載され、救急
行為が許されている。

「SOS」で真っ先に駆け付ける



「感染防止衣」を身に着け、
医療器具がぎっしり詰まった
「救急バッグ」を持ち、人工
呼吸器などが入った「酸素
バッグ」を背負う

救急

First Aid

救急車での移動中は、傷病者を安心させるよう
声をかけながら応急処置などを行う



■救急救命士■
坂本 祐樹 さん

勤務しつつ知識や技術を研鑽

救急救命士の資格取得への道のりは長い。
消防官として5年以上の救急業務を経験後、養
成所で半年間の研修を積み、大学や学校で
養成課程を修了するかつて、ようやく国家試験
の入り口に立てる。

坂本さんは、救急救命士になり3年。「資格取
得後も病院実習や、勤務日の訓練、非番の日
には講習に参加し、勉強は欠かせません」と、あ
らゆる状況に対応できるように、仲間と共に知識
や技術の研鑽を重ねている。

休憩や仮眠を挟むとは言え、24時間勤務は
体が資本だ。トレーニングで体力をつけ、コロナ
禍では感染症対策も万全に行ってきた。車内を
換気し、防護性の高いガウンやマスクを身につ
けると暑く、身動きもしづかったという。しか
しSOSの呼び声があれば、何もかも忘れ、真剣
に目の前の患者に向き合っている。

一方、救急車の出動件数は年々増
加。緊急性のない問い合わせの増加
に加え、ここ数年は新型コロナウイルス
感染症の影響も大きかった。鳥
取市内には4つの救急指定病院があ
るが、感染者が増えすぎて受け入れ
が困難なこともあり「病院に搬送す
るまで1時間かかったこともある」
と、救急救命士の坂本祐樹さんは振
り返る。出動件数が増えている今、
命の危機にひんしている人をすぐに
救急搬送できるように、救急車を呼
ぶか迷った時には、救急ダイヤル（※）
への相談も活用したいものだ。

救急の現場では、家族、発見者な
ど周囲の人が、緊急事態に動揺して
いることが多い。隊員たちは、状況
を詳しく聞き取るとともに、気持ち
を落ち着かせ、不安を取り除くこと
も重要な役割だ。

坂本さんは「私たちは毎日出動し
ていますが、その方やご家族にとっ
ては、人生に一度、あるかないかの
緊迫した状況。その中で、自分たち
が役に立てるとうれしい」。大きな
やりがいと誇りを胸に、今日も救急
車へと乗り込む。

※救急ダイヤル：大人#7119・子ども#8000

どんな現場でも対応できるように、
油圧機器や画像探査機、ロープ、担架など、
さまざまな道具を積んだ救助工作車



数多くの道具がさっと取り出しやすいように
コンパクトに収納されている



抜群の連携プレーで素早くかつ慎重に救助する



あらゆる場面を想定し訓練

救助隊の出動機会がもつとも多いのは交通事故。ケガ人が車両に挟まれているなど、自力では脱出できないような状況に、油圧機器などを搭載した「救助工作車」で事故現場へ向かう。藤岡さんは「事故車両の中に入り、要救助者の容態の確認をし

たこともある」と、現場は常に危険と隣り合わせ。一つのミスが命取りになる可能性があり、訓練中も常に本気。交通事故の想定訓練では、年1回、廃車を使い、実際に車両を切断するなどして知識や技術の向上に努めている。

交通事故以外にも、火災、機械事

故、爆発事故、自然災害、水難、建物事故（エレベーターの閉じ込めなど）、さらには毒ガスや放射能漏れ事故などにも出動。どの現場もひとつとして同じものはない。現場で冷静さを失わず行動できるように、過去の事例を検証し、あらゆる場面を想定して訓練を重ね、技術とチームワークを高めるのみだ。

訓練を積み、自分たちの安全性が確保されていると判断した上での活動とはいえ、危険であることに変わりはない。それでも「大変な現場ほど、救出できた時のやりがいは大きい」と言い切る。その姿勢が頼もしい。



隊員がデザインしたオリジナルワッペン。
砂丘や麒麟獅子など地域色豊かなモチーフ



交通事故で車の下敷きになった
人の救助訓練

危険な災害、事故現場で救助

オレンジ色の救助服を身に着け、火事や交通事故、水難事故、大雨や地震など、あらゆる災害現場で人命救助に活躍する「救助隊」。別名「レスキュー隊」とも呼ばれ、隊長1人、隊員4人（うち1人は機関員）の5人1隊が基本だ。

「救助隊は、人命救助の専門的なカリキュラムを受けた隊員で構成されます」と話すのは、鳥取消防署の高度救助隊長の藤岡哲広さん。救助隊にも種類があり、「救助隊」のほか、さらに高度な救助技術を持つ「特別救助隊」や「高度救助隊」などがある。

高度救助隊は県東部では鳥取消防署だけの配置だ。5年ごとに体力と筆記の試験があり、日々の忙しい業

救助

Rescue
Traffic

交通



救助隊員の「救助服」は、災害現場で目立つようにオレンジ色。ヘルメットや肘当て、膝当てなどでケガに備える

務の中でも、トレーニングや知識の吸収は欠かせない。藤岡さんは「入職したばかりの頃、山陰自動車道で大きな事故があり、救助隊が速やかに救助をやり遂げていた。純粋に『すごいな』と憧れて、救助隊を志しました」と若かりし日を振り返り、今も心に情熱と使命感を宿す。



実際に起こったトンネル内事故での救助
＝写真提供：東部消防局



地震や水害など、大規模災害が頻発する近年。自治体からの要請を受けて、大規模災害の現場に出動し、支援するのが緊急消防援助隊だ。鳥取県では過去に、2016年の熊本地震、18年の広島県の土砂災害現場などに出動している。



災害現場では指揮本部にもなり、100人規模の支援体制が可能。キッチンやシャワーも備えており、いわば巨大なキャンピングカーだ。隊にはドローンも配備され、土砂災害などの人が踏み込むことができない現場での情報収集などに実践投入されている。

また、災害救助では消防防災航空隊（鳥取県消防防災航空センター管轄）も活躍。鳥取空港に拠点を置き、これまでに大山、砂丘、海などでの救助救急活動や、地震などの災害応急対策活動などに出動している。さらに、林野火災の際は空中からの消火や、高度医療機関への転院搬送など幅広く対応。災害に強い消防防災体制づくりの一翼を担っている。



水中に潜って救助をする「潜水隊」。4人1組で訓練を実施



判断力、精神力を問われ葛藤も

溺れている人の救助は、一分一秒を争う。例えば、海で波にさらわれてしまつと、時間の経過とともに命のタイムリミットが迫り、捜索範囲もさらに広がるからだ。出動指令が入ると、ウエットスーツやヘルメットなどの基本装備、救助に必要な機材とともに現場に駆け付け、隊長や

現場指揮者は、天候や潮の流れ、活動状況などを踏まえ、救助の指揮を執る。

「多くの情報を処理して瞬時に判断を下すことが大変。要救助者を救いたい気持ちと、隊員たちを守らねばという葛藤もある」と難しさを語る前田さん。

要救助者を発見できたら、応急処置を施して救急車へ。しかし精一杯やっても、時間の経過とともに要救助者が亡くなっている場合も多い。「それでも捜して、ご遺体を家族のもとに帰してあげたい。これは自分たちにしかできないこと」と、強い使命感を胸に、任務にあたる。

ーツ、シュ
などを身
背負う。ウ
替水する

ヘルメット、ウエットスーツ、シュノーケル、マスク、フィンなどを身に着け空気ポンペを背負う。ウエート(重り)をつけて潜水する

救助

Rescue

Drowning

水難



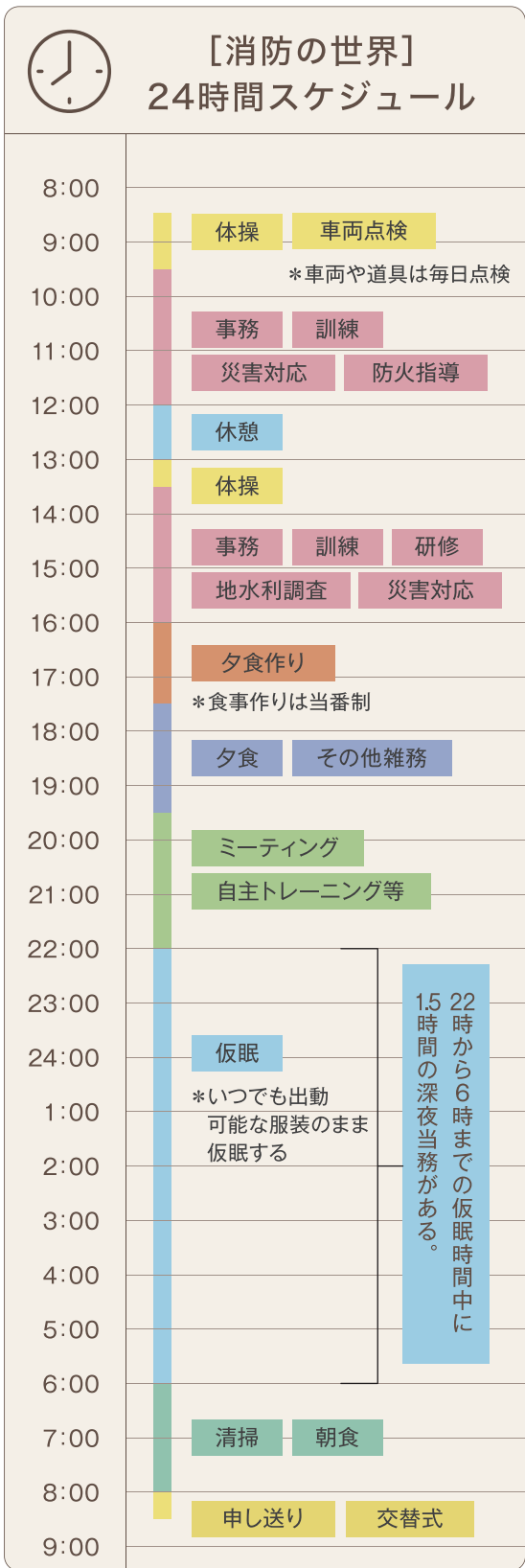
鳥取県には、東部・西部消防局にそれぞれ水難救助隊が設置されている。東部は「潜水隊」といい、隊員は総勢26人。全員、潜水士と小型船舶免許を有し、選抜試験を経て隊に加わる。出動するのは、海水浴客や釣り客の事故、車両の水没など海や河川、池などの事故現場だ。

事故はいついかなる時に起こるかわからない。このため、潜水訓練は月1回行われ、警報が出ない限りは

冬の日本海でも潜る。年間12回の訓練は全国的に見ても多く、消防だけの訓練もあれば、消防防災ヘリコプター（県所有）や県警機動隊、海上保安庁などの関係機関とも合同で訓練し連携体制を強化している。

水中は潜ってみたいと状況がわかないことが多く、さらに視界も悪い。リスクが高い現場であるため、潜水の際は原則バディ行動だ。隊長の前田彰仁（まえた あきのり）さんは「絶対に助ける」という強い気持ちと、自分たちの安全を確保する判断力の両方が必要」と話す。万が一トラブルが発生した場合にも、冷静に対応できる強い精神力が求められるのだ。

水中で1本のロープを持ち、要救助者を捜索する訓練



1年を通じて管内各地の建物を回り、消火器や消火栓などの設備を検査する

管理体制のチェックや原因を特定

類似の火災を繰り返さないために、広報も重要だ。今年2月には、外国人向け防火研修を実施。あらゆる人が、安全に暮らせるように啓発活動にも力を入れている。

「危険物施設の検査」の「危険物」は、ガソリンや軽油、灯油など消防法で定められた大きな火災の原因となるものを指し、これらの危険物を扱う施設を検査する。東部消防局管内の対象となる施設は619件、約2割がガソリンスタンドで、この他は灯油を扱うホームセンター、工場の貯

蔵庫などだ。

ガソリンスタンドは年1回、その他は3～5年に1回検査。点検業者の点検を受けているか、消防法に違反していないか、計器類に故障はないかなどをチェックする。「万が一、火災や事故が起これば、周囲に甚大な被害となる。適正に維持・管理されているか厳しく検査します」と天川さん。表に見えづらいところで、地道にコツコツと私たちの暮らしを守ってくれている。

図 鳥取県東部広域行政管理組合消防局
所 鳥取市吉成640-1
☎ 0857-23-0119
Web <https://www.east.tottori.tottori.jp/shoubou/>

図 鳥取県消防防災航空センター
所 鳥取市湖山町北4-344-2(鳥取空港内)
☎ 0857-38-8119
Web <https://www.pref.tottori.lg.jp/airrescue/>

火災予防

Fire Prevention

現場以外での通常の服装。近年は、育児休暇などの制度も導入され、女性隊員も多く活躍中だ



危険物タンクの基礎を検査する様子
＝写真提供：東部消防局

悲惨な事故を減らしたい

災害を未然に防ぐ「火災予防」もまた、消防の大事な仕事。主に「予防査察」「火災原因調査」「危険物施設の検査」の3つに分かれている。予防査察の目的は、火災予防と被害の軽減だ。飲食店やオフィスビル、工場、公共施設などの一般住宅以外の建物を対象とし、消火器や消火栓、スプリンクラーなどの消防用設備がきちんと設置・維持管理されているか立入検査する。

東部消防局管内では、対象となる建物は約8000件。既存の建物の立入検査や、新築の建物の設置検査

などに10人が分担して毎日出向く。湖山消防署予防係の天川学さんは、『広辞苑』ほどの分厚い法令集を手に「消防法は、大火災が起こるたびに順次改正され、複雑化する。審査する側も常にアップデートが必要」と語る。

火災原因調査では、焼損が激しいほど原因の特定が難しい。警察とも協力しながら丸1日か、それ以上の時間を費やす。近年では、コンセン

消防指令センター

119番をまず受信するのが、指令センターの情報指令課だ。受信後、速やかに人員や車両の出動を該当消防署に要請する。現場の状況によっては、ドクターヘリや防災ヘリ、警察、自治体などの他機関との調整も請け負う。その判断は秒単位。混乱している通報者に寄り添いながら速やかに必要な情報を引き出す聞き取り技術や、瞬時に判断ができる十分な現場経験、さらに他機関との調整力も求められる。



119番を受信し、出動や連携を速やかに判断して要請する指令センター。「核」となる場所だ

119番受信後 秒単位で迅速に判断



また、すべての人が消防の助けを受けられるように、119番はユニバーサルデザイン(※)になっている。外国語は32カ国語に対応した通訳センターがあり、聴覚障がいがある人も、登録制のメールやファックスでの通報が可能。さらに、手話通訳が間に入って会話を中継する「電話リレーサービス」もある。消防司令長の森本桂さんは「誰もが119番に頼れる体制を整えています」と広く周知に努めている。

※ユニバーサルデザイン＝年齢や障がいの有無、国籍などに関わらず、すべての人々が利用しやすいサービスや製品、デザイン

宇佐美里香

空手家

Usami
Rika



「世界一美しい形」(※)。

2012年の世界空手道選手権大会(以下、世界選手権)決勝、宇佐美里香さんの演武は、そう称賛された。

その動画は10年以上経つ今も視聴され続け、再生回数は2千万回超。

しかし栄光の陰には必ず、知られざる努力や挫折がある。

泥臭く、理想を追い求める彼女の半生を追った。

※空手競技では、選手が1対1で対戦する「組手」と、定められた何十種類もの動きを組み合わせで1人で競う「形」がある。

文／鳥飼 明子 写真／田中 良子

高さ100m以上の断崖で通称「屏風岩」と呼ばれる船上山山頂に船上神社が鎮座する。写真右下は本殿＝写真提供：萱野雄一

今なお息づく狼信仰

開運
おかげ
詣で

因幡と伯耆の神社



船上神社 琴浦町



船上神社に伝わる版木。
向かい合う狼が彫られている



琴浦町館津の祠に安置される狼像(写真上)と、琴浦町宮木にある石造の狼像(同下)



疫病封じ、害獣除け、
五穀豊穡

ご利益

狐、鹿、猿、馬、鳥。神社にはたくさん動物がいる。想像上の動物なら龍から麒麟まであれば切りがない。これは神様に直接願いを伝えることを畏れ多いと考え、代わりに動物に取り継いでもらおうとした日本人の謙虚さゆえか。

中でも、とりわけ狼は特別な信仰を集めた。「オオカミ」が「大神」に通じること、また、生態系の頂点に立ち、田畑を荒らす鹿や猪を捕食したことが大きい。そのため狼を描いたお札を畑に立て害獣除けに、戸口に貼って盗難や疫病除けを祈った。

「狼信仰」は関東を中心に東日本に集中し、西日本にはそう多くないが、どういいうわけか船上神社には色濃く残る。周辺を歩いてみると、狢犬の代わりに祀られた狼像がそこかしこに10体ほど見つかった。これらは集落の祠と本殿に1対ずつ祀ら

れ、1年に一度入れ替えられる。これを「オオカミさん送り」という。とはいえ、船上神社は標高615mの山頂にあり、大きいものは高さ1m近くもある狼像を運ぶのは並大抵ではない。近年はふもとの兼務社で執り行われるが、現在でも毎年、続いているというから驚きだ。

1905年に捕獲されたのを最後に絶滅したニホンオオカミ。しかし、害獣による農林業への被害があちこちで増えている今こそ、狼の力が必要かもしれない。



船上神社に
祀られている狼像

恩師と共につかんだ世界一

二人三脚でひのき舞台へ

「静」から、一気に「動」へ。空気を切り裂くような突きと蹴り、敵の攻撃に負けない鉄壁の受け。ピシッ、ピシッと鳴る空手着の音が、その極めの鋭さを物語る。相手を射抜くような目線、みなぎる気迫は怖いほど。元世界女王の形は、今も強く美しい。

空手を始めたのは小学5年生の時。「きっかけはTVドラマ。女子高校生がカンフーで悪者をやっつける姿が格好良くて」と、近所の空手道場に通い始めた。高校の部活で次第に頭角を現し、3年時のインターハイでは形で優勝。勝負の面白さに目覚めた。

「もっと強く」と願い進学した強豪・国士舘大学で、運命の出会いがあった。1年の時、より高度な指導を求め空手部監督に連れられて、鳥取市内の道場を訪れる。待っていたのは井上派系東流慶心会宗家・井上慶身さん（故人）、世界王者を多数輩出する「形のチャンピオンメーカー」と呼ばれ

る人物だった。「世界で勝てる」と見込まれた宇佐美さんは、以降月1〜2回井上さんの道場へ通うようになる。卒業後は鳥取県に移住し、二人三脚で世界を目指した。

敗北をバネに得た勝利

「まるで仙人」。最初は何を言われているのか難しすぎて…。理解に苦しんだ」と、その出会いを振り返って笑う。しかし井上さんは、実はとても優しく、ユーモアのある人柄で徐々に打ち解けていく。半面、繰り出す技は速く、すさまじい爆発力。その技に圧倒され、「師匠」と慕うように。そして関節の使い方、力の入れ方・



抜き方、体軸の位置など、理論に裏付けられた指導に、今までの自分の技を根底から覆された。何度も繰り返し、コツコツと技を修得していくうちに、才能がぐんぐん開花。国体4連覇、全日本選手権も5度制覇、アジア選手権でも3連覇と、まさに飛ぶ鳥を落とす勢いだった。

そして2010年、目標としていた世界選手権（セルビア・ベオグラード開催）へ。国内負けなしの彼女に誰もが優勝を期待していた。しかし、結果は3位。「悔しくて悔しくて、何日たっても涙が出るくらい。でも、逆に火が付いた」

世界選手権決勝（2012年、フランス）で演武する宇佐美さん。写真右は表彰式＝写真提供：ABCD（株）チャンプ



技を体現、教えを次世代へ

その後は、さらに自分を追い込む。1日12時間の練習や、時には「突き」ばかり5時間やり続けたことも。筋力トレーニングを増やし、パワー・スピードのアップも図った。そして2年後の世界選手権（フランス・パリ開催）では、一分の隙もない気迫、一切無駄のない美しい演武で見事頂点に。悔しさとプレッシャーをバネにあくなき努力を重ねた成果を、師匠と抱き合って喜んだ。

広めたい空手道の魅力

気力・体力ともにギリギリの戦いを終え、その翌年に現役を引退、指導者として新たな一步を踏み出す。また2015年には、東京2020オリンピック正式種目認定に向けた「KARATE2020アンバサダー」に就任。空手道の普及活動に尽力し、21年には女性初の（公財）全日本空手道連盟の日本代表強化委員長という大

役も。いずれも彼女の實力が評価されていたの拔擢だった。

現在は、（公財）鳥取県スポーツ協会に勤務、特任体育指導員として県内の学校などへ出かけ、空手の指導や披露、講演などでスポーツの楽しさを伝えている。

この間、2人の子の母となり、空手から離れる日々もあった。それでもまた戻ってきたのは、やはり「好き」だから。目指すのは、井上さんから受け継いだ技を次世代へ伝え、空手の魅力を世界中に広めること。「言葉より、実際に自分の技を見せることで伝えたい」と決意を語る。

高いレベルの技を体現できるのが彼女の強み。師匠の教えを胸に、終わりのなき空手の道をよどみなく歩んでいる。



井上派系東流慶心会主催のオーストリアでのサマーキャンプ（2016年8月）＝写真提供：宇佐美里香

プロフィール

1986年、東京都生まれ。国士舘大学大学院修了。10歳から空手を始め、帝京高等学校、国士舘大学では空手部で研さんを積む。2004年、大学1年から井上派系東流慶心会宗家・井上慶身さんに師事。2008年鳥取県に移住し2012年、第21回世界空手道選手権大会で優勝。2013年現役引退。2015年から（公財）鳥取県スポーツ協会特任体育指導員。空手道公認5段。



客の要望がヒントになり、試作中の小ぶりのどんぶり

MEMO

町域の95%を森林が占める若桜町は、古くから林業で栄えた土地。天然木を材料にした木工芸も盛んで、椀など暮らしの道具作りを産業とする木地師が数多くいた。「現代の名工」の茗荷定治さん（故人）を輩出している。小林さんは「県の伝統工芸士」（2018年認定）。



工房に並ぶ材木と挽物に使うさまざまな道具



温かみのある作品の数々。仕上げは木目を生かして仕上げる「拭き漆」



盆、菓子器、七味入れ…ひとつとして同じものはない木目の美しさ、滑らかな肌触り…。小林義實さんが生み出す挽物のひきものは、天然木の良さを引き出したものばかり。使うほどに手になじんでツヤを増し、一生つき合いたいと思わせる力がある。

木地師 小林 義實

山々に囲まれた若桜町生まれ。高速回転するろくろに固定された木材が父の手によって瞬間に形を変える様子に、胸をときめかせつつ育った。しかし、進路を選ぶ頃にはプラスチックが世に広まり木工製品は需要が激減。将来を案じた父の薦めで跡は継がず、金融機関に就職した。それから40余年、定年退職後に小林さんは一念発起し、木地師を目指す決心を決めた。

当時、町唯一の木地師・山根肅さんに弟子入りし、3年間の修行の末に独立。「親父の工房で残されていた材を使ってスタートしました。以来15年、なかなか満足できる域には至りません」

しかし、その仕事は緻密で繊細だ。櫓や柅、山桜など木の性質を読んで鉋のかけ方を工夫し、髪の毛よりも微細な単位で求める形を削り出す。シンプルだけに、技量が正直に反映される。完成した作品は、どれも表情豊かで温かい。

昨年からはどんぶりや小さな盆など新たな作品の試作に取り組む。「日常的により使いやすいもの」と考えた。木地師の技を次世代へつなぎたい」

文／日高 むつみ 写真／田中 良子

木に宿る命を削り出して形に



数年前、大病も患ったがりハビリに努めて復帰。現在は妻と二人三脚で工房を営む小林さん

- ☎ 小林挽物店
- 〒 八頭郡若桜町若桜962-2
- ☎ 080-3883-6944
- 📅 不定休

自然の力で汚水浄化、 世界課題に貢献

自然の浄化力を生かし、電力は不要、メンテナンスも簡易、
そんな画期的な汚水処理システムがある。

大成工業株式会社(米子市)が開発したTSS※だ。

SDGs事業にもつながるこの取り組みは今、
世界的にも注目され始めている。

※TSS=自然浄化式汚水処理施設。Taisei Soil Systemの略。



TSSを使ったトイレの設置工事(インド、2018年9月)
写真提供:大成工業

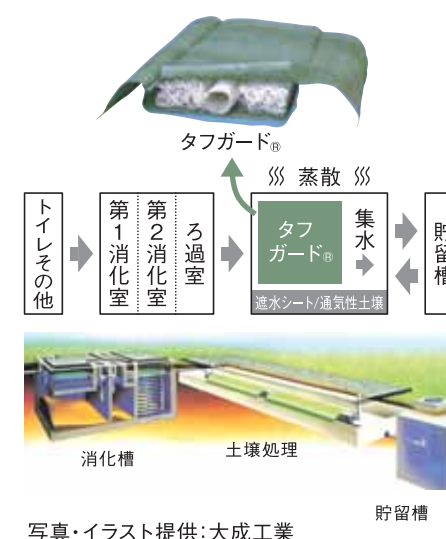


大成工業のみなさん。前列中央が社長の三原博之さん、
後列左が松本さん

通常、汚水処理する浄化槽は、
処理後の水を放流するため、近く
に側溝などが必要で設置場所には
制限がある。同社の先代社長が、
この課題の解決策を練り「肥だめ」
をヒントに開発した(1983年)
TSSは、放流が不要で設置可能
な場所が増えた。

TSSの仕組みは、まずトイレ
などの汚水を地中のタンクに送
り、微生物の力で腐敗させて濾過
した後、特殊な不織布を使った資
材「タフガード®」で土に浸透させ
る。そこから染み出した水は無色
透明で農業用水に使えるため、植
物の根に吸い上げられたり、土の
表面から蒸発したりと、敷地内で
処理が終わる。段差をつけること

TSS汚水処理施設の仕組み



写真・イラスト提供:大成工業

で自然に水が流れるため電力も不
要で、耐久性も高く、維持管理も
容易だ。

国内では現在、公園や工場、高
速道路のインターチェンジなど
550カ所以上に設置。国外でも
ソロモン諸島(環境省のモデル事
業)やインド(ODA事業)に、T
SSを生かしたトイレを設置した。

特に屋外での排泄が多いインド
では、川などが汚染され、感染症
の流行が社会問題となっている。
衛生状態の改善に貢献しながら事
業を進め、現地の施工業者やNP
O法人と協力して極力、地元の資
材を使うなど、現地に負担をかけ
ない方法が好評だ。

この環境にやさしい事業は、結
果的にSDGsにもつながった。

ゴールの1つ「安全な水とトイレ
を世界中に」だけでなく、インド
で衛生教育を行い、施設の維持管
理に女性を雇用するなど、幅広く
取り組む。また、県の「とっとり
SDGs企業」にも認証され、取
締役TSS事業部長の松本安弘さ
んは「とっとりSDGs伝道師」
として、各地での講演も請け負
うなど、より力を注いでいる。

「トップが早い段階で、SDGs
への積極的な取り組みを決断し
た。どんな仕事でも深掘りしてい
けば、必ずSDGsに貢献できる」
と松本さん。長年、業務に真摯に
向き合い、コツコツと進めてきた
その先に、世界の課題を解決する
糸口が見えてきたようだ。

文/松村亜紀子 写真/佐野明美

大成工業株式会社

代表/三原 博之
設立/1965年10月
資本金/2000万円
所 米子市米原6-15-37
☎ 0859-32-1137
🌐 <https://www.taisei-kg.co.jp/>

鳥取の
うま味

思い出よみがえる

懐かしい味



昭和喫茶の王道メニュー

ナポリタン858円、オムライス
880円(税込)。いずれもおで
ん出汁のスープ付き。牛スジラ
ーメンやオムハヤシ、フロートや
パフェも人気。17時以降はアル
コールも。雑貨は販売もあり。

喫茶モダン

所 倉吉市大正町1075-52
☎ 0858-24-6885
営 平日:11時~22時
土曜、日曜、祝日:
11時~15時、17時~22時
休 水曜、第3火曜

文/日高むつみ 写真/佐野明美

かつて大勢の買い物客でにぎわった倉吉銀座商店街。
今は寂れたこの町を再び元気にしたい。店主・大口義敬
さんのそんな思いから生まれたのが、ここ「喫茶モダ
ン」だ。

テーマは「昭和レトロ」。奥行きのある店内は懐かし
の雑貨で埋め尽くされている。キャンディーズや松田聖
子のポスター、仮面ライダーのソフビ人形(※)、花柄
の鍋や魔法瓶、ブラウン管テレビ。照明や家具も当時の
ものを譲り受けた。一歩足を踏み入れた途端、タイムス
リップした感覚に包まれる空間だ。

それらをスパイスにして味わいたいの、当時の喫茶
店の定番2品。古書店で見つけた料理本をひもとき、子
どもの頃の記憶を頼りにたどり着いたという。

ナポリタンは、もっちりとした食感の太めの麺としっ
かり炒めたケチャップの濃厚な甘さがポイント。オムラ
イスは、ケチャップライスをきっちり巻きこむスタイル
だが、卵を3つ使い、外側は固めに見えて内側はとろ
り。そのたたままいはレトロな洋食皿によく映える。

頼めるごとに広がる甘酸っぱい香りを楽しみながら思
い出話に盛り上がるうち、普通の1.5倍はある量もペロ
リ。食べる人をいつの間にか元気にする昭和の味だ。

※ソフビ人形=ポリ塩化ビニル製の中空が空洞になった人形

カメラマン↓老舗の5代目へ 技術と発想力で地域盛り上げ



醤油等製造業経営、広告・デザイン業(鳥取市)

浜崎 昭匡さん 鳥取市出身

- ◎家族構成／母親と2人暮らし
- ◎移住前の住まい／神奈川県
- ◎移住時期／2020年3月
- ◎現在の仕事／醤油等製造業、
広告・デザイン事業

株式会社楠城屋商店
〒鳥取市立川町4-116
☎0857-22-2118
🌐 <https://nanjoya.com>

「枠にとらわれず、思いついたことは、ダメもとでやってみる。面白がるのが大事」と浜崎さん



どっしりとした歴史を感じさせる蔵に所狭しと並ぶ醤油の樽やみそ造りに使われる機械

さらに、新商品の開発にも意欲的だ。1本に7束分のパクチー(香菜)を入れた「パクチー醤油」や、酒とみりんが調整済でそこにイカを入れるだけで沖漬けができる「いか沖漬醤油」など、地元の農家や漁師と協力した新商品を次々と打ち出す。

休日には、遊びにも全力投球だ。「冬は山でスキー、夏は海でSUP。関東に住む子どもたちもよく遊びに来ます。鳥取の環境は抜群!」と満面の笑み。浜崎さんの「面白いこと」は、この地にまだまだたくさん転がっているそう。



プロカメラマンとして

第一線で活躍してきた浜崎昭匡さんは、鳥取市にUターンし、100年以上暖簾を掲げる老舗醤油屋の5代目を継いだ。

既存の枠にとらわれない自由な発想と行動力で、醤油屋と地域の可能性を広げている。

From Kanagawa

VIVA
トリ
LIFE

輝くIJUターン者たち

文／井田 裕子 写真／田中 良子



濃厚で甘いさしみ醤油ほか、1年以上寝かせた蔵出し味噌など、楠城屋商店の多種類の商品

鳥取で「面白いもの」を

浜崎さんの生家・楠城屋商店は、1900年代の創業以来、醤油を主に味噌、酢の製造・販売を行い、食材のおいしさを生かす懐の深い味が、地元住民に長く愛されてきた。しかし、20代から、東京で大手企業の商業写真や音楽雑誌のアーティスト撮影などを手掛けていた浜崎さんは、「家業を継ぐ気は、まったくなかった」と話す。

転機は2018年。4代目の父親が体調を崩し、撮影の合間を縫って帰郷するように。ちょうどカメラマンの仕事に迷いが生じた時期でもあった。

「30〜40代前半までは、挑戦的なアイデアも試せてとにかく楽しかった」



保育園で実施したみそ造り体験(写真提供: 浜崎昭匡)と蔵で醸造させているみそ

た。でも、技術的にも気持ち的にも落ち着いたのか、以前のような『面白さ』を感じられなくなってきた」と振り返る。家業を手伝う長男の姿に安心したのか、父親は同年7月に他界。そして「会社経営は初めてだし、面白いかもしれない」と店を継ぐと決めた。

2020年に鳥取へ拠点を移し、しばらくは東京での仕事も受けていたが、今は地元で重点を置く。「いろいろな人と関わって、一緒に面白いものをつくる達成感を味わいたい」と、これまで培った技術や経験、人脈を生かし、鳥取県内で広告・デザイン事業も請け負うように。最近では、鳥取県が普及推進する省エネ住宅『NEEST』の立ち上げや、食品会社(鳥取市)のWEB作成などにも関わった。

コラボや新商品続々

撮影技術を武器に自社のWEBページも一新。「商品を広く手に取ってもらうためにどうすべきか」を考え、醤油と全国的にも人気の高い鳥取市の窯元・因州中井窯の醤油皿をセットにした商品を出し、好評だ。県内へのアピールも忘れない。地元の保育園や公民館でみそ造りの体験教室を実施、地元産の味に親しむ機会も広めている。

【IJUターンの相談窓口】

公益財団法人 ふるさと鳥取県定住機構
〒鳥取市扇町115-1
鳥取駅前第一生命ビル1F
☎0857-24-4740
🌐 <https://furusato.tori-info.co.jp/>

IJUターン就職に関する相談
☎0120-307-238
(8時30分〜17時15分※土日・祝日除く)

移住に関する相談
☎0120-841-558
とっとり移住定住ポータルサイト
🌐 <https://furusato.tori-info.co.jp/iju/>

巻頭特集の澤田廉三・美喜夫妻のことは、今まで知らず、感慨深く思いました。このような方がいらしかったから、今の日本がある。本当に尊敬する生き方だと感じました。

(京都府京都市 竹内 美香子)

岩美町は、とても景色が素晴らしく、何度も訪れていますが、これまで澤田夫妻のお話を知る機会がなかったです。記事を読んで、澤田さんが終生愛してやまなかった故郷の魅力を、もっと知りたいと思うようになりました。

(大阪府豊能町 奥村 美由子)

差別と戦いながらも、信念に従って行動する澤田美喜の生き様は、本当にかっこいいです。私も人生を捧げたいと思えるような物事や、人に出会えたらいいなと思いました。

(鳥取県鳥取市 浅田 唯吏江)

「BUNKA部」の記事の中で米子南高等学校のかたるた部の活動を見て、数年前に観た映画を思い出しました。競技かるたの世界は、運動部に勝るとも劣らない気迫の攻防。仲間と切磋琢磨されたその経験は、必ずそれぞれの将来に繋がるでしょう。応援しています。

(鳥取県米子市 澤田 文佳)

「おもしろ発見手帖」の狛犬の記事が興味深かったです。思えば、これまで神社に参拝しても狛犬をじっくり見たことがなかった。今後は、狛犬に注目した神社巡りをしてみたいです。

(島根県松江市 金山 真也)

「ここにこの人」の現代アーティスト・井田幸昌さんに感動しました。この秋はぜひ「京セラ美術館」に出向き、生の井田ワールド、に触れてみたいです。

(京都府舞鶴市 越後 正行)

「鳥取のうま味」のスパイスカレーを見て、若いころ、子どもたちのために何種類もの香辛料を使い、添加物の少ないカレーを一生懸命、作っていたことを懐かしく思い出しました。

(兵庫県神戸市 小西 桂子)

■ 応募方法

下記の項目を記入し、ハガキ、電子メールまたはWEBの専用応募フォームでご応募ください。

- ① 希望の商品記号または商品名
- ② 掲載記事への意見・感想
- ③ 応募用クイズの答え
- ④ 住所・氏名・年齢・電話番号

※②の感想が次号の「voice」に掲載される場合、住所・氏名が明記されることをご了承ください。また商品の当選は、発送をもって発表に代えさせていただきます。

※お預かりした個人情報は、プレゼント発送以外の目的に使用することはありません。



● 応募用クイズ ●

Q 江戸～明治時代の甲冑職人の技術を応用し、金属を素材に昆虫などを再現した工芸品とは何？空いている□に当てはまる文字を記入してください。

□ □ □ 物

137号のクイズの答えは「熊井浜」

■ 応募先

〒680-8570 鳥取市東町1丁目220
鳥取県広報連絡協議会(鳥取県庁内)
「とっとりNOW読者プレゼント」係
メールアドレス: now@kouhouren.jp

応募バ
2023.
6/30
消印有効

A



PAKUPAKU

パクチー醤油ミニ (100ml) 【3名】

鳥取県産の新鮮なパクチーをふんだんに使ったパクチー醤油。餃子や肉、魚、サラダ、パスタなど多様な食材にマッチし、パクチーが苦手な人にも好評を得ている。

問 株式会社楠城屋

WEB <https://nanjoya.com/>

完熟とまとたっぷり ミネストローネ (180g) 【5名】

日南町産の完熟トマトをぜいたくに使用し、無添加の手作りベーコンと国産野菜8種、大豆をじっくり煮込んだ自慢のスープ。パスタやご飯を加えるなどしても美味。

問 日南トマト加工株式会社

☎ 0859-82-0413

B



C



しゃんしゃん傘模様の印鑑ケース

(浅型4cm×8.5cm・深型5cm×8.5cm) 【3名】

鳥取市の夏の風物詩「しゃんしゃん祭り」で使用する傘をモチーフにした印鑑ケース。傘のイメージカラーをベースにステンシルという技法で模様をプリントした。鈴付き。※色・大きさは選べません。

問 ギャラリーそら ☎ 0857-29-1622

Editor's note

□ ■ 編集後記 ■ □

消防＝火消し、のイメージだが、聞けばあれもこれも、え、そんなことも!? と、その役割は想像以上に幅広い。広報担当の方に組んでもらった取材のタイムスケジュールは、2日間ぎっしり。終了後は取材陣一同、ぐったり。多岐にわたる内容と緊張感が気が張り詰めていたのだ。▽そのうちの水難救助。取材をお願いしておきながら、「暴風雪」との天気予報におびえた私は前日、「撮影、延期

しますかね?」と恐る恐る電話で尋ねてみる。が、「普通に実施ですよ」とさっぱり。そりゃ、そうだ。救助に天気など関係ない。そして当日。気温は1℃、現場は飛ばされそうな強風。大海原の荒波が何度も、防波堤を超えてくる。「ひえっ、こんな海に入るの?」。一歩間違えば共倒れ。ゾツとした助ける側の危険性を改めて実感。▽命もかかる任務のオンパレード。なのに「なぜこの道に?」と問えば、「役に立ちたいから」と口をそろえる。精鋭たちの迷いのなさが、まぶしすぎた。【Hi】

〈企画・編集・発行〉鳥取県広報連絡協議会
〒680-8570 鳥取市東町1丁目220(鳥取県庁内)

〈制作〉株式会社セイ堂デザイン
〒680-0841 鳥取市吉方温泉3-802 TEL.0857-22-1122

☎ 0857-26-7086
☎ 0857-29-6621

『とっとりNOW』はWEBでも見られます。
WEB限定のコラム「すべての道は鳥取に通ず」
「菌活で広がるきのこの世界」「満ぶく よくばりグル
メ皿」を連載中。

